

【学生フォーラム】

岡崎市におけるニホンリスの分布調査

人間環境大学 小笠原陸陽、大友仁美、河合悠太

要 旨

ニホンリスは本州、四国における平地から低山帯の森林に生息し、愛知県では準絶滅危惧、岡崎市では絶滅危惧Ⅱ類に分類されている希少種である。しかし、岡崎市では1980年代以降ニホンリスの分布調査は行われていないため、現在の生息分布は明らかになっていない。本調査ではニホンリスのマツ類の地上食痕から生息の有無を判断した。ニホンリスの食痕は49地点のうち16地点で確認され、25メッシュのうち14メッシュで分布が確認された。ニホンリスの生息地は岡崎市西部の市街地には少なく、東部の植林地に広がっていた。

1. はじめに

ニホンリス (*Sciurus Lis*) は齧歯目、リス科の日本固有の動物である。本州と四国の平地から低山帯の森林に生息し、マツ類などの種子や果実、新芽、花、キノコ、昆虫などを採食する¹⁾。ニホンリスは全国では絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)、愛知県では準絶滅危惧 (NT) に分類されており²⁾、岡崎市では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に分類されている³⁾。ニホンリスの愛知県における分布は豊田市を中心にみられ、岡崎市の分布は東部の森林域に広がっていると考えられている²⁾。しかし、岡崎市の分布として示されているデータは1981年に行われた分布調査の結果を元に作られており、現在の分布がどのようなものであるかについては分かっていない⁴⁾。本調査では岡崎市における現在のニホンリスの分布を明らかにするとともに、どのように変化しているのか調べることを目的とした。

2. 方法

ニホンリスのマツ類の地上食痕から生息の有無を判断した。調査は、リスの主要な食物であるマツ類種子の当年結実が採食され新しい食痕が得られる7月から8月のうち⁵⁾、2021年7月9日、8月10、11、20、26日の計5日間に行った。岡崎市を5倍地域メッシュ (約5km×5km) で25メッシュに分け、1メッシュにつき2地点を目安に調査地点を計49地点選定した。調査地点は、森林部では原則マツ類が10本以上ある地点とし、都市部ではマツ類がまとまって生えている場所が少ないことから1本以上マツ類がある地点とした。各調査地点では、マツ類が10本以上ある地点では10本を対象とし、10本未満の地点ではその地点にあるマツ類をすべて対象とした。食痕を探す際は各木の樹冠の下を目視でくまなく探索し、食痕があるかどうか調べた。マツの実の食痕を見つけた場合、マツがエビフライのように鱗片を剥がされ、その周りに鱗片が散らばっており、鱗片が一度に割かれ、鱗片に大きな損傷がないものをニホンリスの食痕とした⁶⁾。各調査地で得た情報をもとに、地理情報システム (QGIS 3.20.2) を用いて分布図を作成した。

3. 結果と考察

候補とした49地点のうち、実際に調査ができた場所は37地点であった(図1)。ニホンリスの食痕は16地点で確認され、25メッシュのうち14メッシュで分布が確認された。また、食痕はあったがニホンリスの食痕かどうか推定できない調査地が3カ所あった。ニホンリスの生息地は岡崎市西部の市街地より東部の植林地に広がっていた。

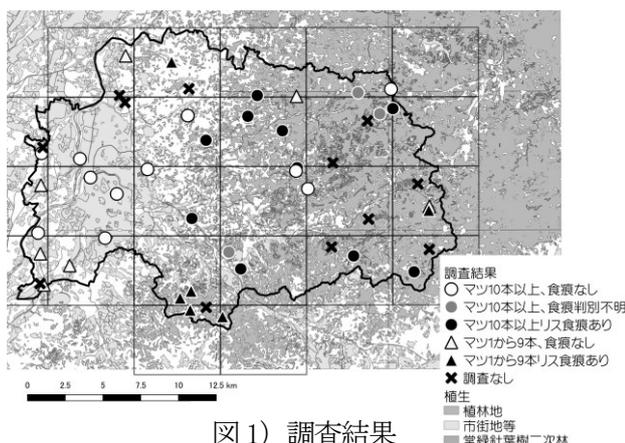


図1) 調査結果

これまで、愛知県のレッドデータブックでは、ニホンリスは岡崎市の東部に

に偏って生息すると考えられてきた。もし、本研究の結果がニホンリスの生息域が東部から西部の植林地に広がったことによるものであるとするなら、岡崎市内の植林地の拡大がニホンリスの分布に影響を与えた可能性がある。岡崎市は古くから牛馬の飼料、肥料採取のための採草地として山焼きが行われ、古くは多くの山林がはげ山となっていた⁷⁾。しかし1910年に植林地を作る政策が策定され、1940年には植林が進み、2021年の岡崎市は約60%が森林となっている⁷⁾。ニホンリスは移動、採食、休息のためにマツ類やスギ、ヒノキといった森林を利用することから⁸⁾、ニホンリスの生息環境が増加したため分布が拡大したと考えられる。本調査により、ニホンリスは岡崎市内の森林域に広く生息していると考えられたため、今後は、自動撮影調査や目視調査などによって生息状況をより正確に把握していく必要がある。

謝辞

人間環境大学立脇隆文准教授、中嶋靖男氏には本調査をご指導いただきました。また、立脇ゼミの令和3年度動物学実習を受講した皆様にはご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

引用文献

- 1) 千葉動物公園、2013
<https://www.city.chiba.jp/zoo/zone/data-japanese-squirrel.html>, 2022年1月7日確認
- 2) 愛知県環境調査センター(編)『愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち2020-動物編-』愛知県環境自然環境課、2020、85頁
- 3) 子安和弘・小鹿登美『岡崎市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックおかざき2014』岡崎市環境保全課、2014、172頁
- 4) 額田町史編集委員『額田町史』額田町史編集委員、1986、41—46頁
- 5) 矢竹一穂・秋田毅・古川淳「千葉県におけるニホンリス (*Sciurus lis*) の生息状況の変遷」『千葉中央博自然誌研究報告』2011、11(2): 19—30頁
- 6) 田村典子・松尾龍平・田中俊夫・片岡友美・広瀬南斗・富士本八央・日置佳之「中国地方におけるニホンリスの生息状況」『哺乳類科学』2007、47(2): 231—237頁
- 7) 一般法人 フォレストストック協会
<http://www.foreststock.or.jp/test/forests/okazaki/>, 2022年1月9日確認
- 8) 矢竹一穂「ニホンリスにおける林冠移動と地上移動」『森林野生生物研究会誌』森林野生動物研究会、2016、41: 51—58頁